

熱線再帰フィルム アルビード
IRAVK700

内貼り・縦貼り

(発行：2017年3月)

Albeedo®

施工マニュアル

※このマニュアルは内貼り・縦貼り用「熱線再帰フィルム IRAVK700」の標準的な施工手順をまとめています。施工の際に必ずご一読ください。

※製品の取り扱いにあたっては、フィルム端部で指を切らないようご注意ください。

施工手順

1. 事前準備
2. 防水養生
3. 窓ガラスの清掃
4. 窓ガラスの採寸とフィルムカット
5. フィルムの貼り付けと仮圧着
6. フィルムのエッジカット
7. フィルムの本圧着
8. 仕上げ
9. 点検・清掃

1. 事前準備

本製品は内貼り専用フィルムです。フィルムを施工できる状態かどうか窓ガラスやサッシ、コーキングを点検します。また以下の施工道具を準備します。

金属スクレイパー／ゴムワイパー／パワースキージー／プラスチックスキージー／ペーパータオル／養生シート／巻尺／施工液(水＋中性洗剤)／ポンプ式スプレー／マスキングテープ／当て切り用ヘラ(または三角定規)／カッター／腰袋／ポリ袋

施工液の作り方

水1リットルに対し、中性洗剤を1～3ミリリットルを入れてください(濃度 0.1～0.3%)。

ガラス面とフィルムの粘着面にスプレーすることにより、フィルム全体をガラスに均一に圧着できます。

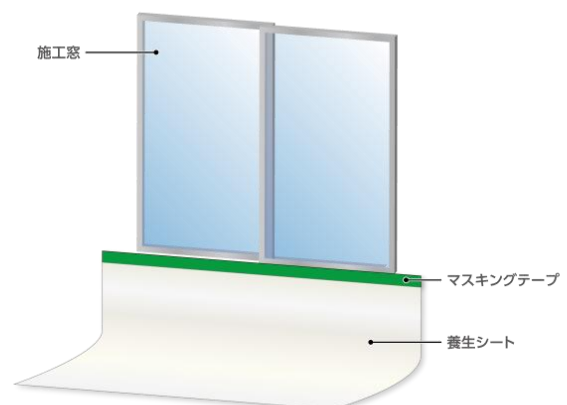
※ 施工時の室温は、5℃～35℃を推奨します。特に冬季は、フィルムからの水抜け性や施工後に誤ってフィルムがずれてしまうことを考慮し、最低5℃以上の環境で作業をおこなってください。

※ 直射日光が当たらない時間帯の施工を推奨します。直射日光が当たっていると施工液が乾燥しやすく、気泡が発生しやすくなります。

2. 防水養生

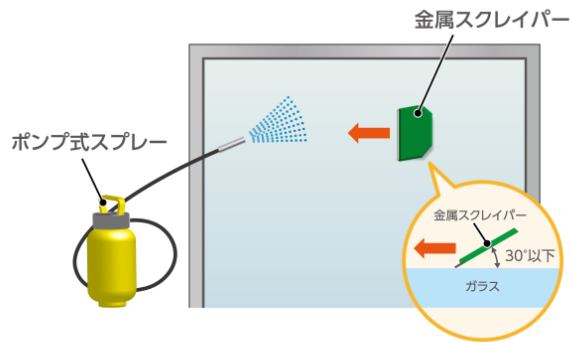
施工時に使用する水が飛散する範囲に、養生シートを敷きつめます。

※ 什器、書類などは、濡れないところに移動してください。



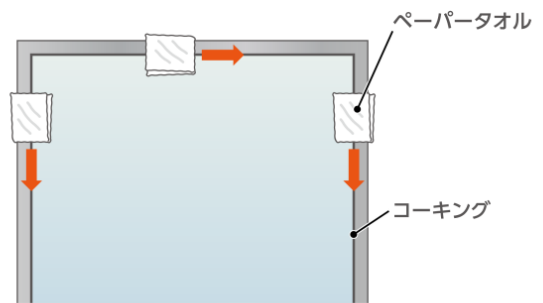
3. 窓ガラスの清掃

ガラス全面に施工液をスプレーし、金属スクレイパーでガラス表面の固形物を除去します。ガラスが傷つかないように、金属スクレイパーとガラス面との角度は30度以下に保ちます。ザラザラ感がなくなり、金属スクレイパーがスムーズに移動でき、目視で固形物がついていなければ完了です。



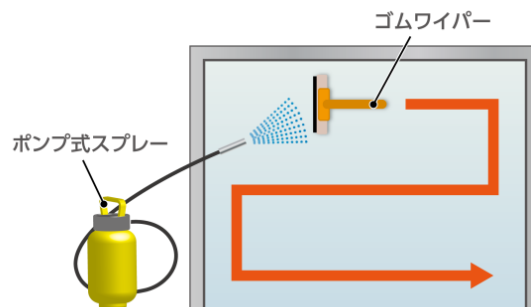
※ 強化ガラス、熱線反射ガラス、防耐火ガラスに対しては、金属スクレイパーを使用せず、ペーパータオルで拭き落としてください。

ガラスの縁、サッシ、コーキング部の汚れをペーパータオルで拭き取ります。



※ 繊維の落ちやすいタオルやティッシュペーパーは使用しないでください。

最後に、再度ガラス全面に施工液をスプレーし、ゴムワイパーでゴミを拭き取ります。

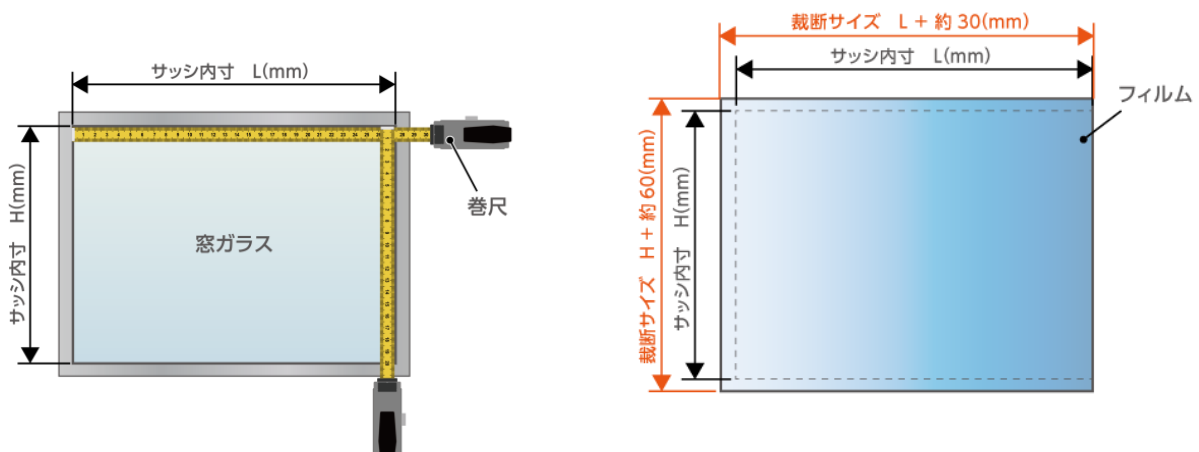


4. 窓ガラスの採寸とフィルムカット

フィルムを貼付するガラスのサイズを巻尺などで採寸します(フィルムは縦貼りです)。

フィルムをサッシ内寸より大きめ(切りしろ各辺30mm程度)に、粗切りします。

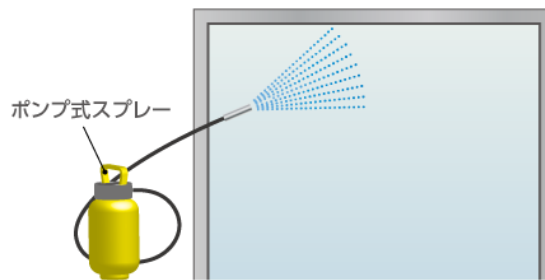
ガラスサイズがフィルム幅より広い場合は、フィルムをつなぎ合わせます。(「7. フィルムの本圧着」内参照)



5. フィルムの貼り付けと仮圧着

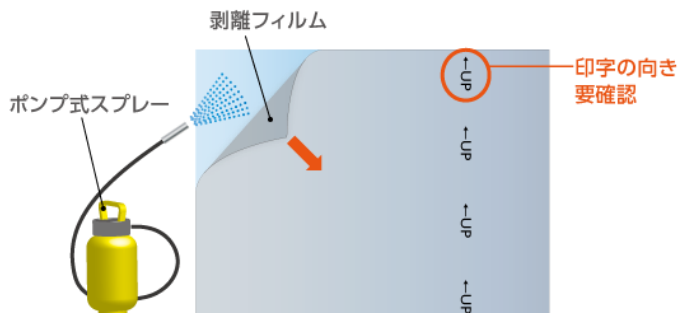
再度、ガラス全面にたっぷり施工液をスプレーします。

※ 施工液が不足した状態で作業をおこなうと、ガラス表面にフィルムの粘着剤が貼りつき、糊ズレ(粘着剤の変形)の原因となります。



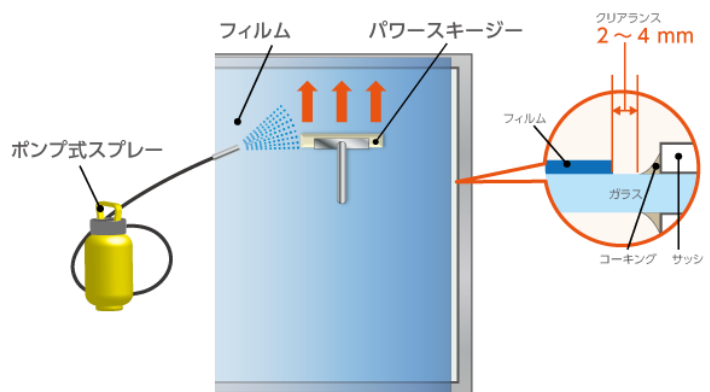
フィルムから剥離フィルムを剥がしながら、粘着面に施工液をスプレーします。

※ フィルムには、上下方向があります。剥離フィルム側に“←UP”の文字が印刷されており、印字にある矢印の示す方向がフィルムの上側にあたります。



ガラスにフィルムを貼り付けた後、フィルム(ハードコート面)全体に施工液をスプレーします。クリアランス(フィルム右辺とコーキングとの隙間)を確認しながら、フィルムの位置を決め、パワースキージーでフィルムが動かないようにたるみなく仮圧着します。

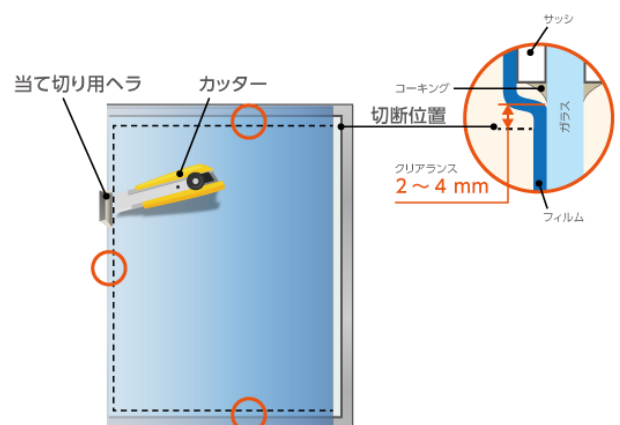
※ フィルムを窓ガラスに貼り付けてから水を抜くまでの時間が長いほど、白濁が進みます。フィルムに施工液をスプレーしてから本圧着開始までの推奨作業時間は5分以内です。



6. フィルムのエッジカット

当て切り用ヘラ(もしくは三角定規)をガラス面に直角に当て、ヘラにカッターを沿わせて移動し、フィルムのエッジをカットします。この時、コーキングとの隙間を2~4mm あけるようにしてください。

※ カッターでガラスを傷つけないように注意してください。



7. フィルムの本圧着

＜水抜きの手順＞

フィルム表面全体に施工液をスプレーします。
右記のようにパワースキージーを当て、水が残らないようにしっかり水を抜きます。

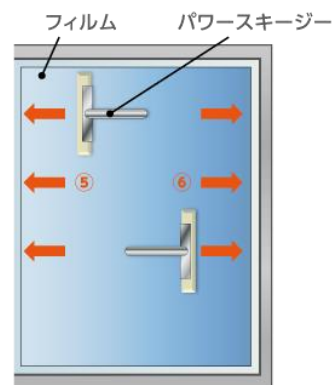
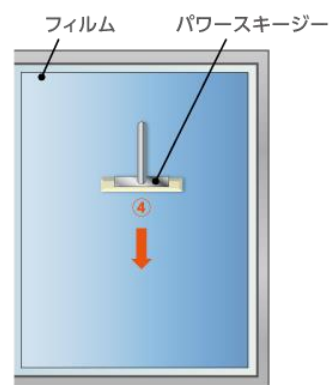
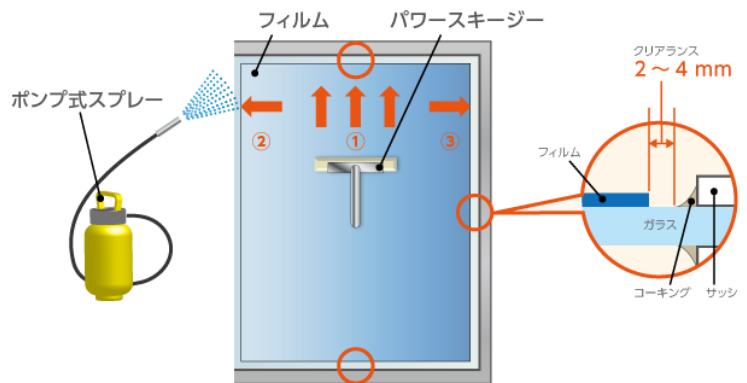
図の①～⑥の順でおこない、1回で抜けない場合は再度①～⑥を繰り返してください。

パワースキージーで圧着する際、必ず水平、垂直方向に水を抜きます。

- ※ パワースキージーは硬質ゴムタイプを使用して下さい。
- ※ 放射線状や往復しての水抜きはおこなわないでください。水抜き不良の原因になります。

フィルム端部が浮かないようにエッジ部分はしっかり圧着し、確実に水を抜いてください。

- ※ 施工後にフィルムが透明になるまで2～3日程度かかります。
- ※ 本圧着後に水残りがある場合には、プラスチックキージーの先端にペーパータオルを巻いたものでの水抜きを推奨します。



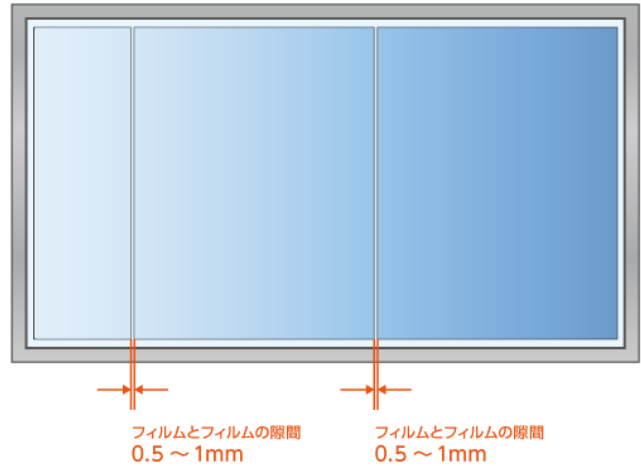
＜フィルムのつなぎ合わせ施工の手順＞

ガラスの幅がフィルムの幅より広い場合は、つなぎ合わせをします。

フィルムが重ならないようにフィルムとフィルムの間隙は、0.5～1mmにしてください。

以降、手順4～7の作業を繰り返します。

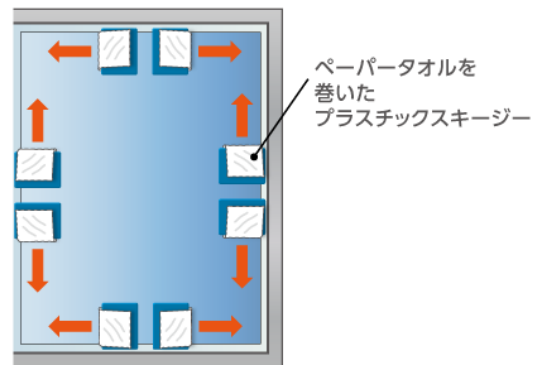
※フィルムが多層構造となっているため、つなぎ合わせ施工の際、フィルムのエッジを何度も突き当てないようにしてください。



8. 仕上げ

プラスチックスキージーの先端にペーパータオルを巻き、フィルム周辺に残っている水をしっかり拭き取ります。

※フィルムが多層構造となっているため、フィルムのエッジを引っ搔くと、剥がれる場合がありますので注意してください。

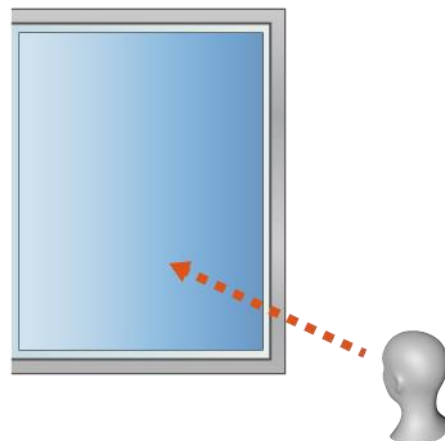


9. 点検・清掃

フィルムとガラスの間に、異物が挟まっていないか目視で確認をします。異物がある場合は、ガラス面に施工液をスプレーしながら、コーナーから丁寧にフィルムを剥がします。異物を取り除き、粘着面に施工液をスプレーしてからフィルムを元に戻してください。その後は手順の「7.フィルムの本圧着」から再度作業をおこなってください。

フィルムのコーナー部が浮いていないか、確認してください。浮いている場合は、再度パワースキージーを押し当ててください。

以上で施工は完了です。



● 施工後の注意事項

- ・施工直後は、フィルムが白濁したり、外の景色が2重(ダブルビジョン)に見えたり、輝線が強く見える場合がありますが、異常ではありません。水分の蒸発と共に徐々にフィルムが透明になり、ダブルビジョンや輝線の強さも軽減されます。
- ・施工後に時間が経ってから、フィルムとガラスの間に小さな水泡が発生する場合があります。この水泡は、水分の蒸発とともに消滅していきますので、異常ではありません。
水泡が消滅するまでの養生期間は2週間程度ですが、冬季や結露が発生する場所などでは、1ヵ月以上かかる場合があります。
- ・養生期間中は、フィルムに触れないよう注意してください。

